

平成26年度学校自己評価システムシート（県立深谷第一高等学校）

目指す学校像	1 広い視野を持ち自ら学び続ける意欲と態度を持った人間を育成する。 2 文化やスポーツを愛し、人と人との絆を大切に作る人間を育成する。
重点目標	1 家庭学習を徹底し、主体的な学習習慣の確立を図る。 2 キャリア意識の向上と目標に向かって最大限の努力を促す進路指導を推進する。 3 部活動と生徒会活動をさらに活性化させる。 4 地域との連携や外部教育力の活用を通じ、教育活動をさらに充実させる。

達	A	ほぼ達成（8割以上）
成	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
度	D	不十分（4割未満）

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	4名
	事務局（教職員）	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価（2月6日現在）			実施日 平成27年2月10日	
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	観点	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 生徒・教員ともに授業への取組はよいが、生徒の家庭学習をさらに充実させるための宿題など、より具体的な動機付けなど、教員の授業の工夫改善が期待されている。</p> <p>【課題】 家庭学習を徹底し、主体的な学習習慣の確立を図る必要がある。</p>	家庭学習など自律的な学習習慣を確立させるための授業改善を図る。	① 家庭学習を促す具体的指導の継続的な企画検討と実施 ② 生徒の授業への取組態度の向上 ③ 研究授業・授業公開、教科内研修を行うことでの授業改善・指導力向上 ④ 企画委員会「学力向上部会（PT1）」の有効的活用	① 家庭学習時間調査を年2回実施し、家庭学習と連鎖する授業の工夫改善による家庭学習時間「0グループ」の解消 ② チャイム着席の継続実施 ③ 初任研を中心とした研究授業・授業公開と教科研修の2回以上の実施 ④ 学力向上に向けた新たな方策の企画と策定	自律的な学習習慣の確立のため家庭学習を重点に置いて取り組んだ。 ① 家庭学習時間「0グループ」の解消にはまだ至らなかった。 ② チャイム着席は良好である。 ③ 1学期の授業公開・研究授業、教育実習生の授業研究とともに、彩の国教育週間でも授業公開・研究授業と教科別研究協議と2回実施した。 ④ 年間計画を立て、その具体化の1つとして、来年度から「進路実現・学力向上重点推進校」の指定を申請した。	B	<p>【課題】 ア 家庭学習時間「0グループ」の解消に今後も取り組む必要がある。 イ 学力向上への授業改善に継続して取り組む必要がある。 ウ 「進路実現・学力向上重点推進校」の取組を本校教育活動全体に活用する必要がある。</p> <p>【改善策】 ア 生徒アンケートをさらに工夫するとともに保護者アンケートも実施し、家庭学習時間の改善への協力を促す契機とする。 イ 教科や学年の取組として研究授業・研究協議を適宜行い、ICT機器活用の授業等の導入も進める。 ウ 「進路実現・学力向上重点推進校」の活用をより具体的に検討し、既存の取組と整合を図りながら実施する。</p>	<p>【意見】 ○ 家庭学習時間「0グループ」解消は必要だが、授業をしっかり受けている生徒も多く、部活動とのバランスも大切である。 【要望】 ア 保護者アンケートを実施し、その意見・要望を踏まえる必要がある。 イ 「進路実現・学力向上重点推進校」の取組は、学校全体でより効果的に活用する必要がある。 【評価】 ○ 本年度の取組を高く評価するとともに、今後も改善・充実に取り組む必要がある。とくに、授業とリンクした家庭学習が重要である。</p>
2	<p>【現状】 多くの生徒の進学希望が合格のための指定校推薦に流れる傾向がある。より積極的に向上心やチャレンジ精神を育み、将来の自己実現につながる進路選択やそれを支える進路指導体制の構築が期待されている。</p> <p>【課題】 キャリア意識の向上と目標に向かって最大限の努力を促す進路指導を推進する必要がある。</p>	キャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識を向上させる。	① 学年間の連携によるキャリア教育の実施 ② 学校が主体的に実施するガイダンス機能の充実 ③ 個別指導の工夫 ④ 「進路の手引き」の活用 ⑤ 一般受験対応クラスの運営の充実 ⑥ 組織的な進学補習の実施	① キャリア教育の視点で3年間を見通した進路指導計画の策定、進路指導の実施 ② 分野別ガイダンス年間5回以上実施や進路体験発表会等の充実 ③ 個別の進路相談、面接指導の充実 ④ 総学において「進路の手引き」を活用 ⑤ 一般受験対応クラスの進路実績の向上 ⑥ 進学補習を年50講座以上の開設	スタディサポートの導入などキャリア教育の充実に向けた新たな取組を行った。 ① 第1学年で新たな指導計画を策定し、他学年も進路実現に向けた「第一志望宣言」などに取り組んだ。 ② 複数校ブースでの説明を大きく改め、内容や方式を見直して実施した。 ③ 適性検査や職業インタビュー活用など学年により特色ある個別指導に取り組んだ。 ④ 「進路の手引き」をさらに活用することに努めた。 ⑤ 一般受験に臨む者が増加し、進路実績は現在集約中である。 ⑥ 前期16講座・夏季20講座・後期13講座を実施し、受講者数は大幅に増加した。	A	<p>【課題】 ア 3年間を見通した進路指導計画の見直し・改善を学校全体の取組として、継続して取り組む必要がある。 イ 上級学校説明会や個別指導の工夫改善を一層進めて、生徒一人一人のキャリア意識と学力の向上を図る必要がある。 ウ 「進路の手引き」の活用のための工夫改善を継続して取り組む必要がある。</p> <p>【改善策】 ア LHR・総合的な学習の時間などの年間計画と連携させて、学校行事・学年行事の在り方とともに3年間を見通した進路指導計画を継続的に工夫改善し、実施する。 イ キャリア意識や学力を向上させる学校説明会の在り方や補習も含め個別指導の方法をさらに検討し、実施する。 ウ 「進路の手引き」の構成や活用方法を継続して検討する。</p>	<p>【意見】 ア キャリア教育推進の観点には、自己理解・社会性をどのように充実させるかが重要である。 イ 生徒自ら将来設計を立てさせる場面を多くし、その具現化を支援する必要がある。 【要望】 ○ 家庭学習の充実も含め、3年間を見通したキャリア教育・進路指導計画には、中学校の進路指導計画との連携・リンクも必要であり、先ず資料交換から取り組むことも必要である。 【評価】 ○ 本年度の取組を高く評価するとともに、今後も改善・充実に取り組む必要がある。とくに、将来の自己実現を見据えた進路指導・「立志」の指導が重要である。</p>
3	<p>【現状】 部活動や学校行事等に熱心に取り組む生徒が多いが、さらに学習への取組の両立が求められている。自転車のより一層の安全運転指導も期待されている。</p> <p>【課題】 部活動と生徒会活動をさらに活性化させる必要がある。</p>	部活動の活性化を図り、規律ある態度育成の指導を徹底する。	① 部活動指導の一層の充実 ② 学校行事の充実と発展 ③ 遅刻指導と清掃指導の徹底 ④ ルールとマナー指導の徹底 ⑤ アルバイトの制限の指導 ⑥ 安全指導の推進	① 1年生全員加入と定着率の向上 ② 文化祭等行事の自主的運営 ③ 昨年度比遅刻指導生徒減 ④ 服装等違反者「0」 ⑤ アルバイト許可者の生活指導の工夫改善 ⑥ 登下校時の安全指導と自転車安全指導の徹底	規律ある態度育成のため部活動の活性化を図った。 ① 全校では88%が加入しているが、1年生では数名の退部者がいる。 ② 文化祭は生徒会執行部により、積極的に運営した。 ③ 一部に限定されているが、遅刻指導対象生徒は増加している。 ④ 学年によるきめ細かい指導により服装等の違反者数も減少した。 ⑤ アルバイトを届け出た者に校長が面接指導を実施している。 ⑥ 自転車運転マナーへの外部からの苦情があり、登校指導など随時対応している。	B	<p>【課題】 ア 部活動の活性化への実効性の高い取組が必要である。 イ 一部の生徒ではあるが、遅刻が常習する生徒への実効性の高い取組が必要である。 ウ 自転車通学者の事故防止・運転マナー向上への実効性の高い取組が必要である。</p> <p>【改善策】 ア より効果的な部活動の在り方について、3年間を見通した活動計画や活動方法を検討し、実施する。 イ 規律ある生活意識向上を含め、家庭の協力を促すとともに、遅刻者減少への指導方法を見直し、実施する。 ウ 生活全般のマナー意識向上を含め、自転車運転の事故防止への指導方法を見直し、実施する。</p>	<p>【意見】 ア 一部の生徒ではあっても遅刻改善、自転車のマナー改善への取組は今後も必要である。 イ 部活動の指導は生き方の指導である。 【要望】 ア 部活動の活性化には、それぞれの顧問に委ねるだけでなく定期的な顧問会議等で学校全体の共通認識を構築する必要がある。 イ 生徒会よりの服装の扱いの要望に対し、学校評議員より服装の乱れの心配が指摘された。 【評価】 ○ 本年度の取組を高く評価するとともに、今後も改善・充実に取り組む必要がある。</p>
4	<p>【現状】 広報の充実により、地域の評価は高く、保護者、地域、中学生からの本校に対する期待は非常に大きい。地域と多様な連携を図ったり、外部の教育力を活用して、本校教育活動を一層充実させることが求められている。</p> <p>【課題】 地域との連携や外部教育力の活用を通じ、教育活動をさらに充実させる必要がある。</p>	生徒募集のための広報活動を充実させる。	① 校内外における学校説明会の充実 ② HPや「ときわ樹だより」による学校活動等の情報発信の充実 ③ 保護者への情報提供 ④ 積極的な地域活動への参加 ⑤ 外部教育力の活用 ⑥ 校内外の美化活動推進	① 学校説明会、個別相談会の年4回開催とネット参加申し込みの実施 ② HP年300回以上の更新と広報紙「ときわ樹だより」年間2回の市内全家庭回覧 ③ 「深一高お知らせメール」による学校行事の情報提供 ④ 地元や深谷市関連行事への積極的な参加 ⑤ 学校評議員・評価懇話会委員の構成見直し、授業研究支援訪問等の活用 ⑥ 生徒、PTAによる美化活動を年5回以上実施	生徒募集のための広報活動等の充実とともに、校内外の美化を推進した。 ① 4回の説明会を行い、参加者数が増加した。 ② HP更新と「ときわ樹だより」を計画通り実施した。 ③ 「深一高お知らせメール」は42件発信した。 ④ 深谷市の「花フェスタ」等への生徒・教員が参加した。 ⑤ 学校評議員・評価懇話会委員の構成を見直したり、高校教育指導課による「授業研究支援訪問」を実施した。 ⑥ JRCなどの部活動による通学路清掃、PTAによる校内の「花植え」、大掃除での学校内外の清掃など5回実施した。	A	<p>【課題】 ア 生徒募集状況改善のため、中学生・関係機関・地域等へのPRの内容や方法について一層の工夫改善が必要である。 イ 本校の教育活動全般が、生徒募集に反映することを踏まえて、目指す学校像・重点目標の実現に向けた学年・分掌・教科・部活動の取組が総合的に行われる必要がある。</p> <p>【改善策】 ア Webページの充実や生徒募集に向けた体制づくりなどさらに改善を図り、実施する。 イ 学年・分掌・教科のシステムシート作成や取組について、総合的に把握し、必要な連携、見直しを図る。</p>	<p>【意見】 ア 多様な広報活動をさらに充実し、中学生の進路選択にも大切である。 イ 本校のHPは細やかな更新と大変充実している。 【要望】 ア HPはさらに多様なサイトを設定するなど、リアルタイムで本校の活動を発信するといふ。 【評価】 ア 本年度の取組を高く評価するとともに、今後も改善・充実に取り組む必要がある。</p>